

現代史・現代社会教育を考える

18歳選挙制が初めて実施された2016年の参議院選挙は、改憲と新自由主義政策を推進する安倍政権与党と「野党共闘」とが「がっぷり四つ」の選挙となりました。同政権は、共謀罪法案の成立で弾みをつけて2018～9年中に明文改憲に挑む姿勢を見せており、教育への権力的介入と新自由主義施策の推進に余念がありません。こうした学問と教育の世界への安倍政権の攻撃を押し止め、はねのけていくためには、市民による正確な歴史認識、公正な社会把握が不可欠です。

この間、「すべての大学に教養科目『戦後世界史と日本』を！」との訴えを掲げて、多くの大学の学生から歴史・社会認識に関するアンケートをとりながら研究を進めてきた「市民ネットワーク」の代表である清真人さんを迎えて、平和と民主主義を希求する研究諸団体として、今知っておくべきこと、とりくむべきものを学び、語り合う時間としたいと考えます。ぜひ、みなさん奮ってご参加ください。

今年の《学生3千名「現代史と現代認識」度調査結果》は
日本市民社会に何を問題提起しているか？

講演：清 真人さん

戦後世界史市民ネット*代表・元近畿大学文芸学部教授
(*すべての大学に教養科目「戦後世界史と日本」を！市民ネットワーク)

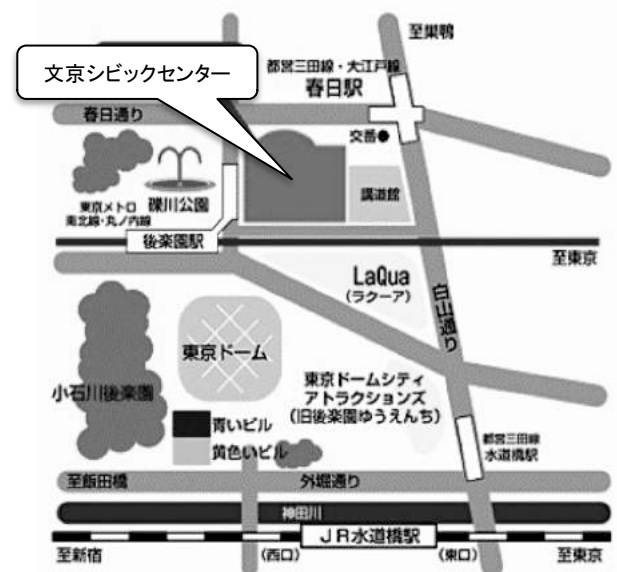
日時：2017年7月17日

(月・休) 14:30～

会場：文京シビックセンター

5F 区民会議室 B

参加無料



主催・連絡先：

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9F

平和と民主主義のための研究団体連絡会議（平民研連）